令和6年度第3回豊明市地域福祉計画推進委員会

豊明市いのち支える自殺対策推進本部　議事要旨

日時:令和7年3月6日(木) 15:00～16:00
場所:豊明市役所　本庁舎新館1階　会議室4
出席者:10人　欠席者:2人　傍聴者:なし

1　あいさつ
　委員長よりあいさつ

2　議　事
　豊明市第3次地域福祉計画・第5次地域福祉活動計画について
　　・第3次豊明市地域福祉計画・第5次地域福祉活動計画(案)
　　・概要版

〇事務局より説明
〇質疑応答・意見

（委員）
　パブリックコメントでの意見はなく、市民アンケートにおいても回収率が40%未満だが、信頼性はあるのか。これで計画を今後評価していくのは難しいのではないか。
　また、市民の意見の聴取はアンケートしか方法はないのか。
　市民はこの計画や福祉施策について知っているのか。
（事務局）
　アンケートの回答数としては非常に少なかったかもしれないが、統計学的には成立する。市民意見の聴取のあり様というご意見はしっかりと受け止めていく。
　アンケートの結果で、相談窓口の認知度が低いことがわかった。市民への周知を含め対応していくことが求められる。
（委員）
　いろいろな分野にかかるアンケートがあるが、各分野にかかわっていない市民には回答することが難しい。周知そのものが難しいと思う。

（委員）
　計画の39ページ22番「福祉団体に関する活動の支援について、自立した組織運営を目指した支援とは何か。自発的に相談に行かなければいけないのか。
（事務局）
　会員の減少や運営費など各団体の運営に関する課題などをお聞きし、持続した活動が続けられるように支援したいということ。相談をいただけば個別に対応していきたい。

また、市からの補助金によって、自主的に活動いただいていると認識している。

（委員）

市、社会福祉協議会には積極的にかかわってほしい。

（事務局）

社協としても、各団体が、それぞれの目的に合った活動ができるように、自立した組織運営をサポートする支援を行っていく。

（委員）

老人クラブ連合会も市から補助金をもらっているが、各地区のクラブに分配をしており、連合会の事業は主に会費で運営しているが、会員が減っているため会費収入が減少している。運営費の補助が必要ではないか。

（事務局）

福祉団体に対する活動の支援として、一人でも安心して暮らすことができる仕組みづくりには、地域の支えが必要であり、福祉団体の力は非常に大切なものである。団体の課題を共有し、その課題解決に向けた取り組みを支援していくということも必要だと思われる。

（委員）

私たちの団体は、社協からアドバイス等の支援があるので、記載内容に納得している。

（委員）

個人的な経験で、遠方の親族が倒れた時に、様々な手続きを行おうとしたが、親族であっても本人がいなければ、手続きできないことがあった。現在は、地域の社協から後見人制度の紹介を受け、手続きを進めている。

このように成年後見制度について、ほとんどの人はよく知らないため、そういったことになってから困っている人が多いのではないか。そのような人をアンケート等で見つけるのは難しいと思われるが、どのように成年後見制度利用推進計画を進めていくのか。

（事務局）

今後、市が特に力を入れていく事業は大きく二つあり、一つは不登校対策、もう一つは身寄りのない方への支援である。今、豊明市でも身寄りがなく亡くなった方の対応に苦慮する事例が散見されているため、生前の段階での意識づけや地域のつながりを作るなどが必要だと思われる。団体の皆様や市民の皆様にも繋がりを意識していただくような取組みを進めていくので、ご協力をお願いしたい。

（委員長）

参考として、身寄りのない方がなくなった場合は、市で葬儀等の手続きを行っている。

（委員）

現状把握において、アンケートが有効だが、各団体に事務局が出向き、状況を把握してくことも必要だと思う。

（委員）

障がい福祉に携わっているが、ひとりでも安心して暮らせるまちづくりに関わることについて、移動手段として、バス、電車、送迎サービス、タクシー補助などはあるが、必要な時に利用できないこと

がある。さらなる拡充が必要ではないか。

（事務局）

福祉としての外出支援がまだ不十分であることは認識している。地域からの要望もあって、新たな地域での「チョイソコ」の実証実験なども行う。

（委員）

母親の居場所づくりを行っているのだが、移動手段として、指定地域であれば「チョイソコ」を母子が利用することもできるが、ベビーカーをなどの持ち運びに苦慮することがある。子どもがいる外出支援も考えてほしい。

（委員長）

今後新しい計画を推進していく中で、これからも様々な意見を伝えていただきたい。

３ その他

事務連絡